

会 議 録

<開催日>平成19年2月19日(月) <時 間>10:00~12:00 <場 所>職員会館 大会議室	報告者 陣 川
--	------------

<名 称> 平成18年度第4回岸和田市協働のまちづくり推進委員会

<出席者> は出席、 は欠席

岸和田市協働のまちづくり推進委員会委員

松端	望月	室田	泉本	三井	昼馬	立石	中川	和田	上野	泉原	小西	正ヶ峰	池田	白木	金寄

協働推進チーム員

加納	山本	春木	石田	大北	大工	西川	忠野	森下	原	井上	寺田	山田	川畑

事務局) 松阪、陣川

今回は協働のまちづくり推進委員会と協働推進チームとの合同会議

< 議題 >

- ・ 自己紹介
- ・ 平成18年度主な協働推進システムの取り組み状況
- ・ 平成19年度協働推進スタッフの重点目標

< 概要 >

岸和田市協働のまちづくり推進委員会の委員及び庁内の協働推進チーム員による自己紹介。

平成18年度主な協働推進システムの取り組み状況の報告(陣川より)

- ・ 1.情報の発信、2.庁内・庁外の体制整備、3.人材育成に重点を置き、各種施策に取り組んだ。

平成18年度の取り組みについて意見交換

(委員)

2月のNPOについての職員向け研修会に講師として参加。たくさんの職員の参加があり、アンケートの結果からもNPOに対し、興味・関心のある職員も多く、良かった。しかし1回の研修ではNPOへの理解は深められない。この研修を生かすには、職員が興味・関心を持って、NPOへ直接疑問をぶつけるなど何か行動にうつすこと。実際に活動に関わってみて欲しい。

(会長)

現在、行政と連携して活動を行っているか。

(委員)

現在の活動は行政とは連携しておらず、町会・小地域で行っている。

(協働推進チーム員)

職員の協働の意識づけが問題。色んな取り組みのなかで、きっかけづくりが出来ると良いが、意識啓発はなかなか難しいと感じている。

(会長)

日々の業務が市民との協働なのか。

(協働推進チーム員)

廃棄物減量推進員制度の業務は市民との協働である。推進員は350人。

(会長)

協働推進チームで検討したことを実際の業務に生かしているか。

(協働推進チーム員)

協働推進チームで学んだ気持ちを持って帰って、日常の業務を変えていこうとしている。

(協働推進チーム員)

岸和田市のホームページは現在9000ページ。ファイル数は30000個。日々の更新が大変である。

SNS(ソーシャル・ネットワーク・サービス ブログ(日記)の集みたいなもの)を協働のツールに使えないかと構想中。

協働について今まで意識していなかったが、協働推進チーム員として協働にふれる内に、今までの仕事でも市民との協働があったことに気づいた。

(会長)

業務において、協働に気づいているか否かでは大違いである。

泉大津ドットコムというNPO法人がある。泉大津の市の情報を集約して発信している。そこには市役所のホームページもリンクしている。岸和田もその手法を使えないか。

(協働推進チーム員)

市民と協働でファミリーロード事業を行っている。総距離500kmある市道の周辺を市民が清掃・管理して、行政はゴミを収集する。最初、課内での協働の意識は低かったが、ファミリーロード事業を行う内に、この事業が協働なんだという認知度が徐々に上がっていった。「日ごろの業務が協働なんだ」というこの気づきは大事だと思っている。

(委員)

町会などで行っている活動の事例や成果を集約して、他の町会へ情報提供すべき。回覧板などが有効と考える。

(会長)

何気なくやっている仕事でもプログラムとしてちゃんと位置づければ、協働の意識付けのきっかけとなる。

協働の成果が出たとき、例えばゴミを減らしたことで経費節減できた場合など、その浮いたお金を行政に戻すのではなく、直接福祉へ還元することはできないだろうか。「自分たちが減らしたゴミが自分たちの福祉に返ってくる」というような制度。このような制度があると、市民の「やろう!」というモチベーションが上がる。

(委員)

久米田池の清掃は多くの団体が参加している。あれだけの団体に呼びかけを行い、集められるのはすごい。行政でもこのように市民団体を集めるきっかけづくりを行って欲しい。

(委員)

ホームページについて。更新業務が大変だということであるが、ホームページの作成業務を請け負うNPOに委託するのはどうか。市のホームページに民間のスポンサーサイトをリンクさせてはどうか。例えば不動産情報がリンクされていれば、岸和田市に引越してくる人が、市の情報と住むところを一度に調べることができ、便利である。

(協働推進チーム員)

市役所のホームページは市町村の広報担当が管理しているところがほとんど。民間管理は難しいと考える。また、民間のホームページは見やすさを重視しているが、市役所のホーム

ページは、アクセシビリティといって障害者など誰でも見られるようにしなければならないため、確かに見栄えは悪い。

(委員)

岸和田市にはNPOとの協働事例が1つもない。以前、町会の公民館の管理を申し出たが断られたことがある。行政としては今後、施設管理を町会などに委託するスタンスがあるか。今後考えてほしい。

(事務局)

確かに、「町会への施設管理の委託」は今のところ行っていない。

(委員)

大阪NPOプラザは、府有財産を大阪ボランティア協会に貸付け、自主的な管理運営をお願いしている。運営にかかる経費(ランニングコスト・人件費等)は、大阪ボランティア協会自身でまかなっている。

平成19年4月からの新しい運営管理者を募集したところ、再度、大阪ボランティア協会に決定。他団体の応募はなかった。委託料を渡しているわけではなく、財政的に厳しい運営になること、大阪NPOプラザの設置目的を果たすことのできる団体が非常に少ないこと、が考えられる。

NPOが施設管理を行う場合、ミッションを見失うことになってはならない。行政側もコストダウンだけを目的とするのではなく、よりよい施設運営を目指して管理先を選定すべきであろう。

(副会長)

行政は何か一つでもNPOに委託して欲しい。

(協働推進チーム員)

我孫子市で市民提案型の公共サービスを行っている。(詳細は、資料1)

(事務局)

市民から事業提案 市民と行政とで検討(話し合いの場を持つ) 市民が事業を行う。

このような事業提案制度を岸和田でも実現したいと思っている。

先日、箕面市の市民活動サポートセンターに行ってきた。キレイな商業施設2Fにある。このような施設なら誰でも気軽に立ち寄れる。岸和田でも市民活動サポートセンターの設立を実現したい。

平成19年度協働推進スタッフの重点目標について(松阪より)

- ・ 1.情報の発信 2.市民間とのネットワークの構築 3.協働のまちづくり推進委員会、協働推進チームの今後の方針 4.協働推進システムの実現 を重点的に実行していく。
- ・ 協働推進チームで、ホームページの充実 協働事業評価システムについて成果物を出したい。
- ・ 市民団体同士のつながりの場を設けたいと考えている。

(委員)

市民(特に年配者)でパソコンを扱って、ホームページを活用している人は少ない。市民対象の情報はホームページだけではまかなえないと考える。他の手段も用意して欲しい。

ボランティア情報の窓口機能を充実させて欲しい。

ファシリテーターの研修について、どのような展望を持っているか。

(事務局)

ファシリテーターは会議の中で参加者の意見をうまく引き出す役目を果たす。

ファシリテーター養成講座は希望する職員のみを受講してもらう。受講後は、色々なところで行われているグループワークにおいて実践することで徐々にファシリテーターの役目に慣れてもらい、最終的には市民会議の場でこの研修の成果を発揮してもらうことが狙い。

(委員)

市民向け講座のPRには、

- 町会の回覧版
- 金融機関のATM などへのポスター・チラシの設置が有効と思われる。

更に、講座に来てもらうのを待つだけでなく、行政から出向いて開催するぐらいの気持ちが必要なのでは。

(事務局)

市民向け講座「お父さんお帰りなさいパーティー」については、来年度は日程・PR方法・内容など本年度よりもバージョンアップして企画したいと思っている。

(委員)

企画課はまちづくりネットワークの支援を重視しているが、中間支援的な組織も大切にしたい。活動している人への支援を行って欲しい。

(委員)

市民活動の窓口は一括して市役所が担うべき。

その他

(委員)

蛸地蔵商店街で4月8日に「投票率アップ大作戦」を行う。投票済証を持って蛸地蔵商店街で買い物すれば、割引になるというもの。

商店街の活性化のため、他の商店街にこの取り組みを紹介して欲しい。

(副会長)

平成18年度の市民フェスティバル、ゴミゼロ作戦でゴミ2t減、金額にして36,500円の経費削減に成功。

来年度もゴミゼロ作戦を行うので、行政の協働推進員等は是非参加して欲しい。

< 来年度の協働のまちづくり推進委員会予定 >

5月21日(月) 10:00~12:00

8月20日(月) 10:00~12:00

10月15日(月) 10:00~12:00

2月18日(月) 10:00~12:00

日程調整の方、よろしく申し上げます。別途、案内文は送付します。